

第6学年1組 総合的な学習の時間・家庭科（平行指導）学習指導案

指導者 野原 学
授業展開場所 6年1組教室

1 単元名 「塩を通していろいろな国を知ろう」

2 単元について

総合的な学習の時間は、各教科の学習を通して身につけられた知識や技能を相互に関連づけ、自ら課題を設定し、自分で調べ、表現する力を身につけることを目標としている。

第6学年の家庭科は、内容Bの日常の食事と調理の基礎(1)アで「食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。」、(2)アで「体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。」があげられている。

本単元は家庭科の「工夫しよう朝の生活・朝食を考えよう」における、調理実習時の調味料「塩」に焦点をあて、取り上げることにした。また、5年次に総合的な学習の時間で学習した「バケツで米作りをしよう」や米に関する発表を行った学習発表会での知識や調べ学習の経験を基礎的な力としてさらに、子どもたちの興味・関心が高まるような体験を取り入れる授業の構成をしてきた。

子どもたちの異文化に対する興味・関心は、直接対象にふれる体験や具体物を見ることで大きく高まることが予想される。また、対象に働きかける中で新しい発見が生まれると意欲が高まり、自ら課題をもち追究する態度が育っていくと考えた。

そのために、子どもたちにとり興味・関心が高く身近な食文化に焦点をあてるのが、効果があると考えた。この時教材として取り上げるものは、該当国にとっては一般的でも日本では未体験なものを取りあげることで、自分たちの思いこみや先入観とぶつかるものがよいだろう。自分の予想と大きく異なれば、異なるほど次に大きな意欲が生まれることへつながるのではないかと考えた。

本授業では、人類に共通した食材であり、同時に必要不可欠なものを選択しようと考えた。家庭科で調理実習を行うこととも関連付け、「塩」を取り上げることにした。ここで取りあげる「塩」は調味料としては極めて一般的な食材である。どこの家庭にもあるので、身近な食材で改めて調べたり、味わったりすることが少ないと思われる。しかし、塩は人間の生存にとって欠くことのできない食品で、かつては塩を巡っての争いも存在した。この塩が国によっては、海ではなく山や地下から採集している事実は児童を驚かせるものであろう。海に囲まれた日本と異なる土地に生活する人々の暮らしに関心に向き、ひいては該当国全体に興味をもてるようになることをねらっている。

さらに、この世界各国の塩を観察・調理・味わうことで新しい気付きや疑問が生まれることを期待している。また、これらの体験を通して子どもたちが自分の課題をつかんで追究を行う流れを学習して、ほかの教科にも発展的に広がることを期待している。

3 単元の目標

- 岩塩の体験を通していろいろな国に興味・関心をもつ。(関心・意欲・態度) 総合・家庭科
- 自分の興味・関心をもとに、調べ学習を進めることができる。(知識・理解) 総合
- 調味料に岩塩を使用した料理を作ることができる。(技能) 家庭科

4 指導計画(総合的な学習の時間6時間 家庭科6時間 計12時間扱い)

学習の日時は必ずしも同日には行わない。

| 時配 | 総合的な学習の時間 | 家庭科 |
|----|----------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 岩塩をきっかけにして各国の文化・習慣に興味・関心をもつ。(本時) | 栄養のバランスを考え、短時間でできる調味料に塩を使った朝食を考える。 |
| 2 | 自分が追究してみたい国と内容を、ウェビング法を用いてしぼりこむ。 | 調理の計画を立てて、材料や作業の分担を考える。 |
| 3 | 自分がもった課題をいろいろな手段を用いて、追究してまとめる。 | 炒める調理の方法を調べ、材料の切り方や調理方法を班で共通理解する。 |
| 4 | 自分がもった課題をいろいろな手段を用いて、追究してまとめる。 | 油で炒める調理のよさに気付き、希望する国の岩塩を使った調理ができる。 |
| 5 | 自分がもった課題をいろいろな手段を用いて、追究してまとめる。 | 油で炒める調理のよさに気付き、希望する国の岩塩を使った調理ができる。 |
| 6 | まとめたことを整理し、分かりやすいまとめ方の工夫をする。 | 調理を振り返り、岩塩を使った家庭での実践計画を立てる。 |

5 本時の指導（総合的な学習の時間における1/6）

(1)目標

- 自分たちの体験や予想とは異なる新しい体験・知識を通して、世界に関心をもつことができる。

(2)展開

| 学習活動と内容 | 教師の支援 | 評価の観点 |
|---|---|--|
| <p>1. 定位置について学習の準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なクイズを行う。 白くて、食べられて、水に溶ける物は何だろう？ ・答えの「塩」がどこにあるか答える。 海にある。 工場にある。 <p>2. 本時の課題を確認する。</p> | <p>○発問の意図をつかめない児童には、「家庭にある」や「食べたことが必ずある」などのヒントを与えて考えさせる。</p> <p>○「塩」と言えば、「海」と結びつける発言を取り上げておく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを正確につかんで、意欲的に参加できているか。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">塩のことをもっと知ろうよ</div> | | |
| <p>3. 塩について想像できることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しょっぱい。 ・海にたくさんある。 ・工場で作られる。 ・料理に使う。 ・食べないと生きられない。 | <p>○自分の考えをまとめられない児童には、普段の食事を想起させてから発表させるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に思考し、意欲的に発表をしているか。 ・自らの体験と比較しながら思考をすすめているか。 |
| <p>4. パキスタンでは塩を海ではなく、山から手掘りで採取することを知り、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ山にあるのか。 ・海と同じ成分だろうか。 ・味はどんな感じだろう。 ・手掘りはきつい労働だろう。 | <p>○国の位置関係をつかめない児童のために、黒板に世界地図を掲示する。</p> <p>○海でなく山から塩を採っている理由と、手掘りの理由を土地や標高・社会環境から考えさせる。</p> <p>○ここでの塩が単なる岩塩でなく、海水の化石であることに気付かせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・思ったこと、感じたことを率直に表現することができているか。また、その時に言下に否定的な発言や態度をとっていないか。 |
| <p>5. 本物の岩塩を見たり、触ったりして感想をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな色をしている。 ・海に遠い国では岩塩が必需品だろう。 | <p>○発表に戸惑う児童には、提示された実物を見たり、香りをかいだりして思考の糸口とする。</p> <p>○ルビー色の岩塩は塩分 99 パーセントであることを示す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・資料から受け取った知識をすぐに、否定的なとらえ方をしていないか。 |
| <p>6 世界各国の塩について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネパール「ヒマラヤ」の岩塩 ・モンゴルの湖塩 ・ドイツの岩塩 ・イタリアの岩塩 ・フランスの岩塩 ・アメリカの岩塩 ・ベトナム・日本の海塩 | <p>○紹介された国と日本との位置関係をつかめない児童には地図帳で調べることを伝える。</p> <p>○岩塩の産出が少ない日本では、海から塩が作られていることに目を向けさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が体験したことをもとに、他国の文化について考えようとする態度が見られるか。 ・国によっては海からかなり離れた場所で産出していることを地図で確認できたか。 |
| <p>6. 味について想像し、試食する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かに塩の味だ。 ・工場の塩より美味しい。 | <p>○試食は無理強いせず、自然な態度に任せる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に参加して、班の中で意見交換を行っているか。 |
| <p>7. まとめ</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">世界ではその土地にあった方法で、人々は工夫して生活しているんだ。</div> | |